

# 2006年3月竣工へ向けて

来年、愛知淑徳学園は創立100周年を迎え、その記念事業の一環として、中学、高等学校の校舎が再来年の2006年に新築されることになっています。卒業生たちは思い出の校舎に別れを告げようと、大同窓会を開催しました。

2003.10.25 sat

## 「思い出の校舎に2000人、大同窓会開かれる」 「まなび舎」で「ついでに会」

現在の中学、高校が星が丘に建てられた昭和34年3月31日、池下(現在の地下鉄池下駅)にあった校舎から新築なつた星が丘校舎に、雲一つない快晴の空の下、校旗を先頭に全生徒が行進し、新聞は、東洋の素晴らしい校舎完成」と報道しました(このとき以来、本学では抜けるような青空を「淑徳晴れ」と言うようになりました)。

以上44年、星が丘キャンパスから巣立っていった卒業生は約2万人。今や星が丘キャンパスは、来年度から設置される医療福祉学部を含めて一大文教エリアとなっています。昨年、この星が丘校舎が生まれ変わるに際して、OGの中から、ぜひ思い出の校舎に別れを」という話が持ち上がり、中・高校の正門工事が始まる2日前の10月25日、「まなび舎」で「ついでに会」と称した一大イベントが開かれました。

開催準備中、協力する人がどんどん増え、実行委員会は60名を超えるまでに。連日、遅くまで準備が続き、最終的に参加者はなんと2000人！高女時代から昨年度の卒業生までが参加する大同窓会となりました。

開催当日、受付は久々に顔を合わせる卒業生でにぎわい、会場の大アリーナでは立ち見も出るほどでした。退職された先生50名が来校され、名前が紹介されるたびに会場にはどよめきが起こりました。元守衛の加藤栄二さんや寮母の斉藤稔子さんなど事務職の方も招かれ、いかに淑徳らしく



第13回卒業生(昭和36年卒業) (右)小野旧姓伴(以下同じ)範子さん  
高1の途中、池下校舎から星が丘の新しい校舎まで、全員、椅子を持って歩いてきたんですよ。建物がスマートで、雑誌の撮影をしていたのを覚えています。今日は大阪から来ました。  
(左)小倉原田(環)美子さん  
この下駄箱を使って、あの教室に入ると、懐かしいですね。小野さんとは高2、3と同級生で、今も年に一度のクラス会では必ず顔を合せています。  
第20回卒業生(昭和43年卒業) (右)池田則竹(左)五十鈴さん  
母校を訪れるのは何



文化祭でお化け屋敷をしたこと、体育祭で応援団をしたことなど、6年間思い出がいっぱいたくさん残っています。  
(右)大原(節子)さん  
今日は茨城から来ました。やはり思い出深いのは、中高と続けた体操部。クラスもいろいろ楽しかったですね。  
第30回卒業生(昭和53年卒業) (右)大原(上原)巨代さん  
十年ぶりなので、すごく楽しみにしていました。高3は3人と同じクラスです。藤井さんと同級生でした。佳代子さん



# 中学・高等学校の新校舎

学園創立100周年事業の柱である星が丘キャンパスの再開発は着々と進み、大学1号棟は本年1月に竣工しました。次は中学・高校の校舎の建設です。



完成後の外観



完成後の配置図

## 4月より新校舎の工事を開始

中学・高校の新校舎は、昨年9月から検討を開始し、昨年1月には、校舎建設委員会」を発足させ、そこを

中心に設計・監理を依頼した株式会社日本設計及びビラオ・ヒイロアーキテクトと相談し、新校舎の設計を

検討し、昨年11月に基本設計をまとめました。

星が丘キャンパスの整備計画では、西側が大学エリア、東側を中学・高校エリアと区分するため、グラウンドも現在の同窓会館のある東側に移転し、その北側に新校舎が建つこととなります。新校舎は3棟であり、階段状の地形を利用して南北に地下2階、地上5階の西棟、それと平行する形で地上5階の南棟と地上3階の北棟をF字型に建てます。

新校舎の延べ床面積は1万3000㎡強となり、この新校舎と大学から中学・高校に移管される清明館と白梅館、プラザ友輪館が結びつきます。まだ新校舎の概要を決めたばかりであり、外壁や内部の仕様など未決定な部分も多いのですが、中学と高校を一体化した構成、ゆったりとした普通教室、最新の設備・施設の特別

環境となります。工事は本年4月から始めます。しかし、在校生の教育環境をできるだけ良好に確保するために、騒音が出る工事は学校の休業期間中に行うなどのため、工事日程は通常より長くなり、新校舎の竣工が平成18年3月、グラウンドも含めたいすすべての工事の完成は平成19年3月となり、全工事期間はほぼ3年という長丁場になります。

工事期間中に最も配慮しなければならぬのが在校生の教育環境の確保であり、防音壁の設置など最善の努力をして対応したいと考えています。

当日、出席者に配られた記念品



しい、実行委員会の温かい配慮には、大きな拍手がわきました。

会は10時30分、第17回卒業生で生徒会長の伊藤政子さんの朝礼形式での挨拶から始まり、元体育科教員の熊本先

生による体操、そして吹奏楽部の伴奏で校歌を全員で斉唱。中日劇場で上演されていた「浅草キリン」物語の「INARI」に出演中の第15回卒業生、宮本信子さんからのメッセージも届き、大アリーナでの2時間の同窓会は盛会のうちに幕を閉じました。



30期は8月に同窓会をやったので、その勢いで今日は参加者が多いんですよ。教室や、いろいろな展示をした渡り廊下など、思い出深い場所がたくさんあります。(左高木(高木)信子さん)

中高と6年も通ったので、やっぱり校舎がなくなるのは淋しいですね。クラブはギタマンで、今日は現役生の演奏が聞けるというのが、楽しくなってきました。第41回卒業生 平成元



年卒業) (右長江(奥村)牧子さん)

2人とも中高とも軟式テニス部でした。卒業して10年の間に、すいぶん学校の雰囲気が変わりましたね。(左柴田(大野)和佳子さん) 校舎は冬が寒かったという思い出があります。テニス部の顧問だった加藤先生や中学の担任だった水谷先生にお会いできたらいいなと思って来ました。



- 1 正門から全景を見る。エントランス前のピロティは屋外広場になる
- 2 メインアプローチから建物北側を見る。半透明のガラスにより教室に柔らかな光が入る
- 3 国際交流プラザからエントランス方向を見る。プラザには2層吹抜分のガラスから光がそそぎ明るい空間となる
- 4 国際交流プラザから2階ラウンジ方向を見る。2階ラウンジとは照明が埋め込まれたルーバーにより柔らかく区切られる

愛知淑徳大学の語学教育における全学支援体制が、2004年度からさらに進化します。新たに英語及び中国語の全学共通授業科目群が、長久

習熟度に応じた語学学習を実現

## 長久手キャンパス 9号棟

# 語学教育センター

## の概要

長久手キャンパスでは、今年8月の完成を目指し、まもなく9号棟「語学教育センター」の着工に入ります。470台以上の語学学習用コンピュータを備え、英語や中国語などの語学習得に大いに役立つことでしょう。

手、星が丘両キャンパスで開講されます。全学共通科目とは、全学部の子生が共通の方針のもとで提供される科目で学び、習熟度に応じて授業が行われるものです。これを機に、長久手キャンパス図書館南側に9号棟（語学教育センター）の建設計画が承認され、現在その準備が進められています。

この新棟は、コンピュータやオリジナル教材を利用した全学向け授業を行うことを主な目的としており、鉄骨造り地上3階建て、総床延べ面積約2780平方メートル、2004年2月着工、同年8月の完成を目指しています。

新棟の特徴は、語学学習用に最適化されたコンピュータ設備が充実しているという点で、470台以上のコンピュータが設置される予定です。

1階中央には、国際交流プラザを配置し、語学学習、留学、国際交流に関する書籍、資料、各種情報などが閲覧できるようにします。またインターネット利用環境を整えた10台のパソコンを設置し、本学日本人学生と留学生が気軽に交流できる場としてのスペースも確保します。さらに、パソコン60台を設置し、常時オープン利用が可能な語学自習専用C教室、講師控室、教材作成室、サーバー室、機械室などに加え、国際交流センターでは語学学習、留学などに関する事務全般の対応を行うとともに、センター内にコーナーを設けて、学生からの相談にも応じます。

2階には、日本語及び日本文化を習得する留学生別科の授業を行う教室を始め、別科関連施設として、セミナー室、教員研究室、準備室を配置します。また、主に外国人教員による小規模授業用として、教員と30名の学生達が近い距離で会話などの授業を行うことができるB教室（4教室）を、さらにMacintosh対応のパソコン40台を設置したマルチメディア対応の授業を行うD教室を配置します。

3階には、Windows対応のパソコン40台を設置したマルチメディア対応の授業を行うA教室（6教室）を配置します。これらA及びD教室では、コンピュータを利用した外国語学習システム（CALLシステム）を導入し、映像、音声、文字情報を活用した授業環境・個人学習環境を提供することが可能となります。その他、遠隔地授業、同時通訳などに対応し、かつミニシアターとしての設備を併せ持つ、多目的に利用可能なF教室を配置します。

このようにして、本学では学生の将来を見据え、英語、中国語を中心とした外国語運用能力の習得を目指し全学共通科目を展開するとともに、海外留学を始め、留学生との交流など国際交流の観点からも学生を支援すべく、さらなる全学支援体制の強化を図るため、9号棟完成に向けて着々と準備を進めています。

コンピュータを利用した外国語学習システムを導入